

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：交通指導取締費

事業名 交通事故総合管理システム整備費・管理費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 交通部 交通企画課 電話番号：058-271-2424 (内 5021)

E-mail：c18873@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 18,033 千円 (前年度予算額：221,014 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	221,014	0	0	0	0	0	0	0	221,014
要求額	18,033	0	0	0	0	0	0	0	18,033
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

現行システムについては令和4年1月に運用開始がなされるもので、同システムは物件事務を含む全ての事故データと交通違反取締りデータを一元的に管理し、かつ、地図情報システムを活用した交通事故分析結果の可視化をすることで多角的な分析を可能としている。

これら分析結果に基づき、警察本部と警察署等が連携して企画・立案・策定を行い、交通事故抑止を図っているものであるが、今後も抑止対策を鋭意推進する上では、システムの継続的な利用が必要となる。

(2) 事業内容

- ・交通事故総合管理システムの運用及び維持管理費
- システム開発費 201,892 千円
- システム機器のリース (保守含む) 90,166 千円 (債務負担)
- 地図更新費 4,350 千円
- データ移行費 9,900 千円

(3) 県負担・補助率の考え方

「第11次岐阜県交通安全計画」の目標達成に向けた交通安全対策は、県を上げて取り組むべき対策であり、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
使用料及び 賃借料	18,033	交通事故総合管理システム機器等の賃貸借費
合計	18,033	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ-2-(2)-③ 犯罪・交通事故防止の推進

「第11次岐阜県交通安全計画」

目標 交通事故のない 安全・安心な「清流の国ぎふ」を目指して

当面の目標 令和7年までに、年間の24時間死者数60人以下、重傷者数350人以下

(2) 後年度の財政負担

(単位:千円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8
開発費	201,892					
賃貸借費	1,472	5,885	5,885	5,885	5,885	4,414
保守運用費	3,037	12,148	12,148	12,148	12,148	9,111
地図更新費			2,175		2,175	
データ移行費	9,900					
合計	216,301	18,033	20,208	18,033	20,208	13,525

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 「第11次岐阜県交通安全計画」に基づき、令和7年までに24時間死者数を60人以下に、重傷者数を350人以下とするため、各種対策を推進していく。
 （第10次岐阜県交通安全計画では24時間死者数を80人以下に、死傷者数を9,000人以下が目標）

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
						%
交通事故死者数	/	43人	60人	60人	60人	%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	現行システムの運用開始により、 ① 分析機能の更なる高度化 ② 物件交通事故データの交通事故分析への活用 ③ 捜査管理機能の充実化 ④ 事故暦検索範囲の拡大 ⑤ 交通事故証明の早期発給 が図られた。
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	安全・安心な「清流の国ぎふ」づくりのため、交通事故抑止の事業は最重要の施策であり、的確な事故防止対策を検討するため同事業の必要性は高い。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	今後、更なる交通事故件数及び死傷者数の減少に向けて、交通事故抑止に効果のあるシステムの活用が必要である。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	システムを効果的に活用して、事務の合理化による街頭での交通安全活動の強化を図る。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後、更なる交通事故件数及び死傷者数の減少に向けて、よりの確な事故防止対策を検討するため、データ化した交通事故の高度な分析により危険箇所の早期把握及び対策効果の検証を行う必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 多角的な交通事故分析とその分析結果をタイムリーかつ地図上にマッチングした視覚的効果のある資料として県民に広報し、更なる交通事故抑止に向けて継続して取り組んでいく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	